

SAITAMA

記録資料から震災を読み解く



1923090

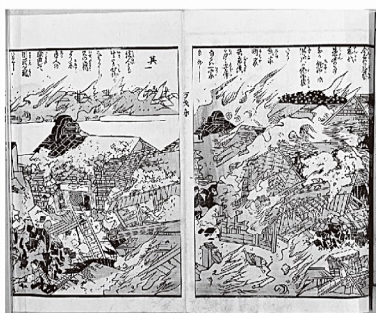
今年は、大正12年（1923）におこった関東大震災から100年目にあたります。私たちが暮らす日本は、「地震列島」と呼ばれるほど多くの地震に見舞われ、被災と復興、そして更なる発展を繰り返してきました。現在、埼玉県にも地震発生が想定されています。この被害想定は、過去の地震に関わる記録資料に基づいたものです。

本展覧会では、関東大震災100年という節目に際して、過去の地震災害と災害対策に関わる埼玉県の取組を、資料から再確認することを目的とします。現在の埼玉県に、江戸時代以降に被害をもたらした地震を概観するとともに、関東大震災の被害において埼玉県がどのような復興対策を取り、地域発展に向けてどのように取り組んできたのかを、当館収蔵資料から読み解いていきます。

1. 前史

- (1) 元禄地震（元禄16年）
- (2) 安政江戸地震（安政2年）
- (3) 明治東京地震（明治27年）

江戸時代以降におこった主な地震について概観します。

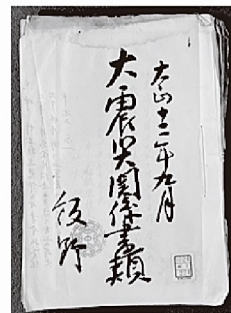


「安政見聞誌」（小室家文書 2743～2745）

2. 発生

- (1) 前夜
- (2) 発生
- (3) 被害

関東大震災が発生し、埼玉県でも県東部を中心に大きな被害を受けました。発生当初の状況を資料から見ていきます。

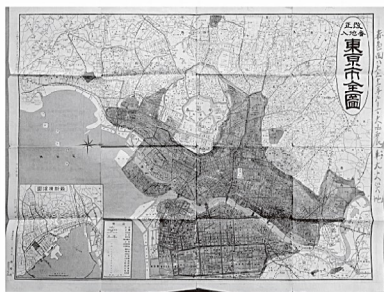


「大震災関係書類」（飯野家文書 224）

3. 救恤

- (1) 情報
- (2) 扶助
- (3) 復興

地震発生後、埼玉県は大地震の被災地であるとともに、東京からの被災者の受け入れ先となりました。

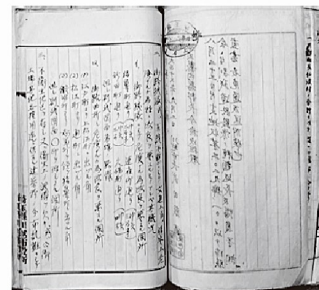


「改正番地入 東京市全図」（青木家文書 6961）

4. 防災

- (1) 伝承
- (2) 都市計画
- (3) 防災

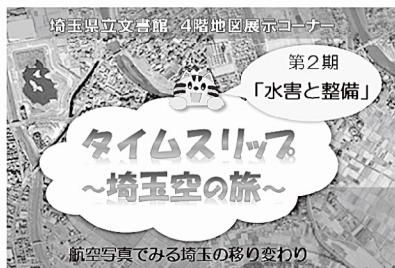
災害を後世に伝え、再び被害を繰り返さないよう、防災の知識を蓄積しつつ、実施していきました。



「都市二関スル調査ノ件都市計画局長へ回報」（県治部「雑款」、大1524）※パネル展示

「鯨絵 地震けん（地震雷火事親父）」（小室家文書 6363-5）

◆同時開催



会期：令和5年10月24日（火）
～令和6年1月28日（日）
会場：文書館4F 展示コーナー

埼玉県の治水施設ができる様子を航空写真で紹介します。



会期：令和5年11月1日（水）
～令和5年11月10日（金）
会場：県庁3F 渡り廊下

埼玉県の歴史編さんや文書館に関する資料を紹介します。



埼玉県マスコット「コバトン＆さいたまっち」